



古道を訪ねて⑤

西国街道・西宿地区

今宮地区から西に進み、芋川に架かる橋を渡り、西宿地区に入ると、民家はしばらくの間途切れ、道の両側は田畑になります。さらに進むと左手に小さな森があります。森の中には「北向地蔵」と呼ばれる小さな祠があり、その前には石灯籠や昭和3年の銘がある庚申こうしんの守り神「青面金剛」の石碑があります。



▲北向地蔵

市内にある「青面金剛」の石碑の多くは江戸時代のものです

が、昭和の年号の入っているものは珍しく、庚申信仰が近年まで続いていたことを証明する貴重な資料です(青面金剛については前月号参照)。

北向地蔵をあとにして、西に約150m進み、街道と小道の交差点を左に入ると、児童公園があります。公園内には小さな「愛宕神社」の社殿が祀られています。京都嵯峨野の「愛宕神社」が、雷神を祀っており、火災を防ぐ神として信仰されていることから、江戸時代以降、箕面市内の村々では、「講」と呼ばれるグループを組織し、「愛宕神」を祀る社を建てました。



▲愛宕社

西宿地区では毎年8月24日、「講」の代表が京都の愛宕神社に参拝して、村の防火・安全を祈ったそうです。愛宕の社の多くは、村全体を火災から見守るために、山や丘の上に祀られています。ここにある社も元は「南山」と呼ばれる千里丘陵上の、村を見渡せる場所にありましたが、南山の開発によりこの

地に移転されたものです。児童公園から街道に戻り、しばらく進むと、小野原地区から途切れることなく一本の道として続いてきた「西国街道」は、国道171号により一部途切れてしまっています。国道の北側で復活しますが、「木戸ヶ池」の脇を通り過ぎると、再び「新御堂筋線」により大きく途切れてしまいます。

